

環境を語る

野口健 総社市環境観光大使

大事なことは、現場で何かを感じることに

底的にやります。地元がたいへんな思いをしているのが観光客にも伝わり、来る人も守らなきゃいけないと思う。やっぱり、地元が大事です。

それぞれの役割

市長 議長や大使に役割があるように、私の役割はルールをつくることだと思います。ゴーヤのカーテン、保健センターの屋上の太陽光パネル、電気自動車の導入、環境学校など、新しいものを作って次々リリースすること、それによって環境は大事だということを伝えていきたいんです。

野口 環境問題って一部の人のものじゃないんです。富士山を例にとる

必ず最大のテーマになるわけです。

市長 野口さんはそうやって全国、世界も見てきているので、外の輪を私たちに、教えてくれると、私たちが次のレベルまで早めにいけ、ありがたいことです。

現場を見る

野口 市長や知事、環境大臣といったトップの人が、不法投棄の現場に行っているのを見て、おもしろい。拾うことには大きな意味があります。現場を見ると掃除意識が表れ、やる気がわき、清掃活動への温度差がなくなります。

市長 去年、総社東小学校の4年生の子どもたちと、いっしょに行ったら不法投棄の現場を見て、

萱原潤 議長
自然のすばらしさを子どもたちに伝えたい

金を半額にしました。これはごみ袋有料化以降、

ごみの量が20%削減されたことによるもので、環境に対する意識がものすごく高まっていることを感じます。

議長 市長が熱意をもって取り組まれたことの一つで、いい方向に結果が出て行くようになればいいですね。踏み切ったのだから市民の皆さんの意識が高いことを証明されることが望ましいです。

自然にふれあう

野口 環境に対する意識を高めるためには、自然との接点を増やしたほうがいいと思います。特に、子どもたちって意外と自然との接点って少ないんですよ。

議長 総社市は10年以上、自然学校といって、小学校3年から6年を対象に、夏に1泊2日で、電気もない水道もない場所です。本気のキャンプを体験しています。

野口 10年ですか。すばらしいですね。

議長 何百人もの卒業生がいますが、1人でもいいから自然大好き人間が出てほしいという思いでやっています。

市長 田植とか稲刈りとか農作業体験も、もつと子どもに手伝わせてほしいです。水田のなかに入ると泥んこになったり。そういうことで環境に対する意識が変わってくると思います。

これから先は

野口 毎年いろんな活動が続けながら、少しずつ新しい分野にも挑戦しています。でも、大事なことは続けることです。今やっていることを確かなものにするためにコツコツといろんなことを進めて

私もびっくりしたし、子どもたちも見ると聞くとは大違い。捨ててはいけないものが山積みになっているのを目の当たりにし、感情を一つにするということとは大事なことであった。

議長 あの場所は自然公園なんです。そういうところで不法投棄が起きていることは案外だれも気付いていない。だから今回そういう場所に行ったことはいろんな意味で良いなと思っています。

意識の変化

議長 環境問題を、子どもに伝える人間が日本は少ないですね。自然の楽しさとかすばらしさを伝える力をもった人が本当にいない。そういう人材を育てていくことも大切だと思います。

野口 そうですね。教育現場は教員だけじゃない

いきたいと思います。総社市環境学校への取り組みも、がんばらなくてはと思っています。

議長 総社の良さは、まだ里山環境がある程度残っていることです。その里山環境というのはいろんな生き物たちの大切なエリアの一つですから、その環境を、今まで続けてきたやり方を継続して、少しでもいい状況で保全するために、変わらずまい進していきたいです。

市長 市民の環境に対する意識レベルをさらに上げていって、岡山県下ナンバー1の環境先駆都市を作っていきたいと思っています。新しいものに果敢に取り組んでいき、総社流といわれるような施策を、次から次へと打ち出していこうと思っています。

片岡聡一 市長

全国に先駆けた取り組みをしていきたい



市長室での対談。写真左から片岡聡一総社市長、野口健総社市環境観光大使、萱原潤総社市議会議長